

小板井屋敷遺跡9

小郡市文化財調査報告書第348集

2022

小郡市教育委員会

序 文

この報告書は、個人住宅建設に伴い、小都市教育委員会が令和2年度に実施した小板井屋敷遺跡9の発掘調査の記録です。今回の発掘調査の成果としては、本報告書に記したように弥生時代から古代にかけての住居跡やピット群といった、これまでの小板井屋敷遺跡の調査で確認されている集落跡の一部が発見されました。

こうした埋蔵文化財は、地域の歴史を知る上で欠かすことのできない文化遺産です。本書に収録されたこれらの資料が、教育及び学術研究において役立ち、また、文化財に対する認識及び理解の一助になれば幸いです。

最後に、調査にあたってご理解とご協力をいただいた地元小板井地区の皆様をはじめ、多くの方々のご援助をいただいたことに厚くお礼申し上げ、序文といたします。

令和4年3月31日

小都市教育委員会
教育長 秋永 晃生

例 言

1. 本書は、小都市小板井地内における個人住宅建設に伴って、令和2年度に小都市教育委員会が実施した小板井屋敷遺跡9の埋蔵文化財発掘調査の記録である。
2. 発掘調査に伴う整理作業は令和3年度に実施した。
3. 遺構写真撮影は調査担当者が行い、遺構実測は久住愛子、宮崎美穂子の補助を得て山田桃子が行った。遺物写真撮影は（有）システム・レコに委託した。
4. 遺物復元は佐々木智子、が行い、遺物実測は山田が行った。製図は久住が行った。
5. 遺構図中の方位は座標北を示し、図上の座標は国土座標第II系（世界測地系）に則している。
6. 本書で用いた標高は、東京湾平均海面（T.P.）を基準とした。
7. 遺構・遺物実測図、遺物、写真是小都市埋蔵文化財調査センターにて管理・保管している。
8. 本書に使用している遺構略号は下記のとおりである。
SC：住居跡、SB：掘立柱建物、SD：溝、SP：ピット
9. 本書の執筆・編集は山田が行った。

〈目 次〉

第1章 調査の経過と組織.....	1
1. 調査の経緯	
2. 調査の経過	
3. 調査の体制	
第2章 位置と環境.....	1
第3章 調査の内容.....	3
第4章 まとめ.....	1

〈挿 図 目 次〉

第1図 小板井屋敷遺跡9調査地位置図 (S= 1/2500)	3
第2図 小板井屋敷遺跡9遺構配置図 (S= 1/50)	4
第3図 SC 1 実測図 (S= 1/40)	5
第4図 SB 1 出土遺物実測図 (S= 1/2)	6
第5図 SB 1 実測図 (平面: S= 1/50)	7
第6図 SB 1 ピット1~8土層図 (S= 1/40)	8

〈図 版 目 次〉

図版 1	①調査区全景（南側から）
	②調査区全景（北側から）
図版 2	①SC 1 完掘（南側から）
	②SC 1 完掘（東側から）
図版 3	①SD 1（東側から）
	②SD 1（西側から）
図版 4	出土遺物

〈表 目 次〉

小板井屋敷遺跡9出土遺物観察表

第1章 調査の経過と組織

1. 調査に至る経緯

小板井屋敷遺跡9の発掘調査は、小郡市小板井547-8における個人住宅建設に先立ち、地権者より令和2年9月23日付で小郡市教育委員会に対して埋蔵文化財の有無に関する照会（審査番号20079）が提出されたことに始まる。市教委では、これを受けて令和2年10月21日に申請地の試掘調査を行った結果、地表下約65cmの深さで遺構が確認されたため、開発に先立って埋蔵文化財に関する協議を行った。

協議の結果、敷地のうち住宅建設部分の56.31m²について発掘調査を実施することとなった。

2. 調査の経過

発掘調査は令和2年11月4日から同年11月24日にかけて実施した。調査の主な経過は以下のとおりである。

11月4日 重機による表土剥ぎ開始。

11月5日 発掘作業員を投入し、遺構掘削開始。

11月24日 調査区全景写真撮影。遺構実測終了。

重機による埋め戻し開始。発掘道具の搬出。

調査完了。

3. 調査の体制

小板井屋敷遺跡9の調査の体制は、以下のとおりである。

〔令和2年度〕

小郡市教育委員会

教育長 秋永 晃生

教育部長 山下 博文

文化財課長 柏原 孝俊

係長 杉本 岳史

技師 杉本 岳史（調査担当）

技師 山田 桃子（調査担当）

〔令和3年度〕

小郡市教育委員会

教育長 秋永 晃生

教育部長 山下 博文

文化財課長 柏原 孝俊

係長 杉本 岳史

技師 山田桃子（整理担当）

〔発掘作業従事者〕

木村哲郎、串尾弥代子、早坂幸子、武藤茂（敬称略）

第2章 位置と環境

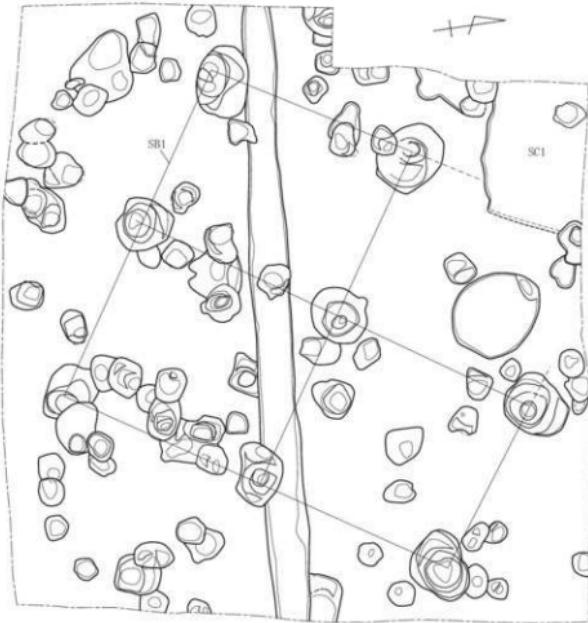
小郡市は福岡県中部に位置し、市内の中央部には南北に宝満川が流れている。小郡市の北半と三井郡大刀洗町のほぼ全域は、古代における筑後國御原郡にあたる。御原郡は筑前国、肥前国に接しているため、「三国」という地名が残っている。背振山系から派生する三国丘陵と呼ばれる低丘陵地帯である。

小板井屋敷は宝満川に形成された解析谷の河岸段丘上に位置している。平成9年以降より5次にわたって調査が行われ、8次調査まで実施されている。それらの調査により、弥生時代中期後半及び弥生時代後期後半から古墳時代初頭の住居跡や、中世の井戸状遺構及び区画溝と考えられる大溝が数多く確認されている。また、古墳時代終末から古代にかけての集落が確認されているが、発掘例が少ないため不明な点が多い。

第1次調査では、弥生時代中期後半の住居3軒と、弥生時代後期後半から古墳時代初頭の集落跡が確認されており、堅穴住居跡が12軒検出されている。第2次調査では、古代の集落跡及び中・近世の溝が検出されている。区画溝とされる13世紀代のSD9は南北26~30mの区画が、それに併走する14世紀代のSD10は、南北25~28mの区画が推定されている。第3次調査では、中・近世の溝と土坑が確認されている。5条の溝の時期変遷を見ると、12世紀を主体とする遺物を有する2号溝と3号溝が12世紀にはほぼ同時期に機能した後、5号溝が14世紀~15世紀頃に使用され埋没し、17世紀~18世紀前半を主体とする1号溝が利用された後に現代のものである4号溝が造られている。また、1号溝と2号溝は幅約2.0m~2.5m、深さ約70cm~120cmと規模が大きいため、各時期の区画溝と考えられる。第4次調査では、弥生時代や中・近世の遺物は見つかっておらず、古墳時代の遺構を主体としている。古墳時代前期・後期前半の土坑と、後期後半の住居跡が確認されており、この住居群は短期間の建て替えが考えられている。出土遺物や主軸方向から、2次調査で検出された住居と同時期のものとされる。第5次調査区は、1次調査地から南に約100mと近い位置にあるものの、1次調査と異なり弥生時代中期前葉~中葉の小児棺1基と祭祀土坑5基が確認されている。朝鮮半島系土器も見つかっており、弥生時代後期終末から古墳時代前期初頭の土器群の中に含まれていたものである。第6・7次調査では、弥生時代から古代にかけての堅穴住居、弥生時代以降から古代以降のものと思われる土坑、近世の溝などが確認されている。6次調査では、弥生時代後期頃及び8世紀後半から末頃に属する堅穴式住居と、16世紀末から18世紀前半のものと考えられる溝が確認されている。また、7次調査では小型彷彿鏡が調査区東壁の清掃時に発見されている。この彷彿鏡は重圓文系で、半円状の二重同心円が一か所のみでその他は藤手文が連続して配置されているものである。また、5次調査と同様に朝鮮半島系土器も見つかっており、弥生時代後期後半から古墳時代初頭のものと考えられる。第8次調査区は、5・6・7次調査区に隣接しており、5・6次調査で報告されている溝と同一のものと考えられる近世代の方形区画溝が検出されている。この溝は5次調査地点にて検出されたものが6次調査地点で屈曲して8次調査地点につながっており、北北東方向に35.2m以上伸びている。



第1図 小板井屋敷遺跡9位置図

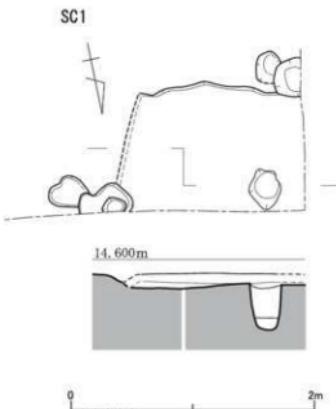


第2図 小板井屋敷9遺構配置図 (S=1/50)

第3章 調査の内容

豎穴住居 (SC 1)

調査区北東隅で確認された、豎穴住居跡である。住居の南西隅部分のみの確認であり、検出されたピットは一つである。そのピットからは土器片が出土したが小片のため、詳細な時期の判断が難しい。確認できた長軸は1.52m、短軸1.08mで、隅は角張っているため方形状を呈す可能性がある。



第3図 SC1実測図(S=1/40)

掘立柱建物 (SB 1)

2間×2間の掘立柱建物である。確認されたピットは8基で、北西端のピットが調査区外に存在すると思われる。ピット1から石錐が、ピット2からは須恵器の坏身片が出土している。他にもピット番号8以外のピットからは土師器の小片が出土している。

出土遺物

1は須恵器の坏身である。ピット2から出土した。復元器高4.1cm、口径10.5cmを測る。調整は内外面ともにヘラケズリ後回転ナデを施す。7世紀初頭～前半のものと見られる。

2はサヌカイト製の尖頭器である。ピット1から出土した。全長4.6cm、最大幅1.95cm、厚さ1.3cmを測る。先端部に使用による欠損がある。

溝 (SD 1)

調査区を東西に走る溝で、幅が約40cm、長さ6m30cm、残存高8.0cmを測る。近世の溝と考えられるが、出土遺物は黒曜石の剥離片のみのため、詳細な時期は不明である。土層は単層で、暗褐色土(Hue 10YR3/3)に褐色粘土ブロック(Huel0YR4/4)が少量混ざる。

その他の出土遺物

SB 1以外のピットからは土師器や黒曜石の破片が出土しているが、そのほとんどが小片のため図化には至っていない。以下、図化した土器のみその特徴をあげる。

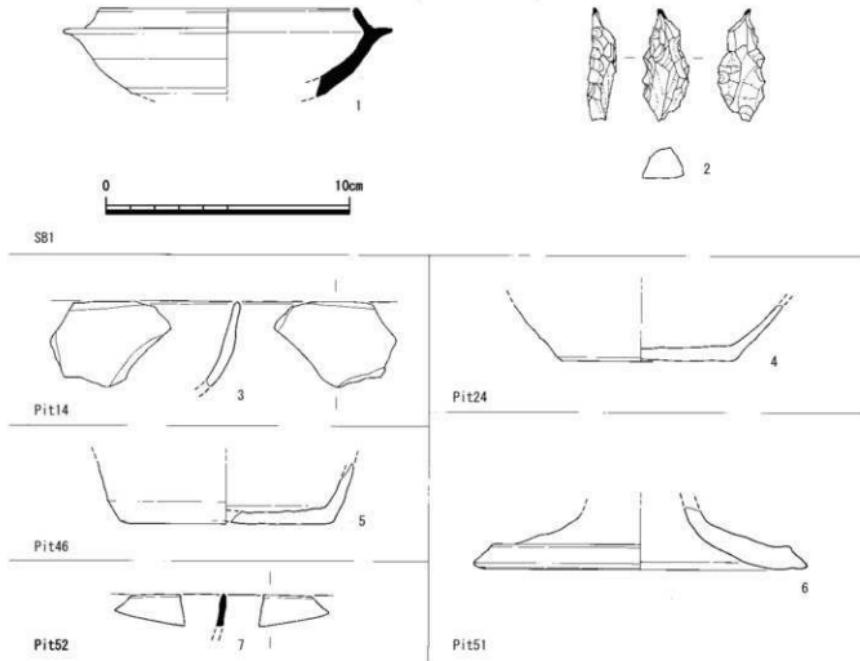
3は土師器の塊である。ピット14より出土した。器高3.5cmを測る。調整は内外面ともにナデを施す。

4は土師器の皿で、灯明皿である。ピット24より出土した。残存高2.3cm、口径11.1cm、底径7.4cmを測る。調整は内面にナデ、外面にはヘラ切り後ナデを施す。

5は土師器の坏である。ピット46より出土した。残存高2.5cm、口径10.3cm、底径8.0cmを測る。調整は内面にナデ、外面にはヘラ切り後ナデを施す。

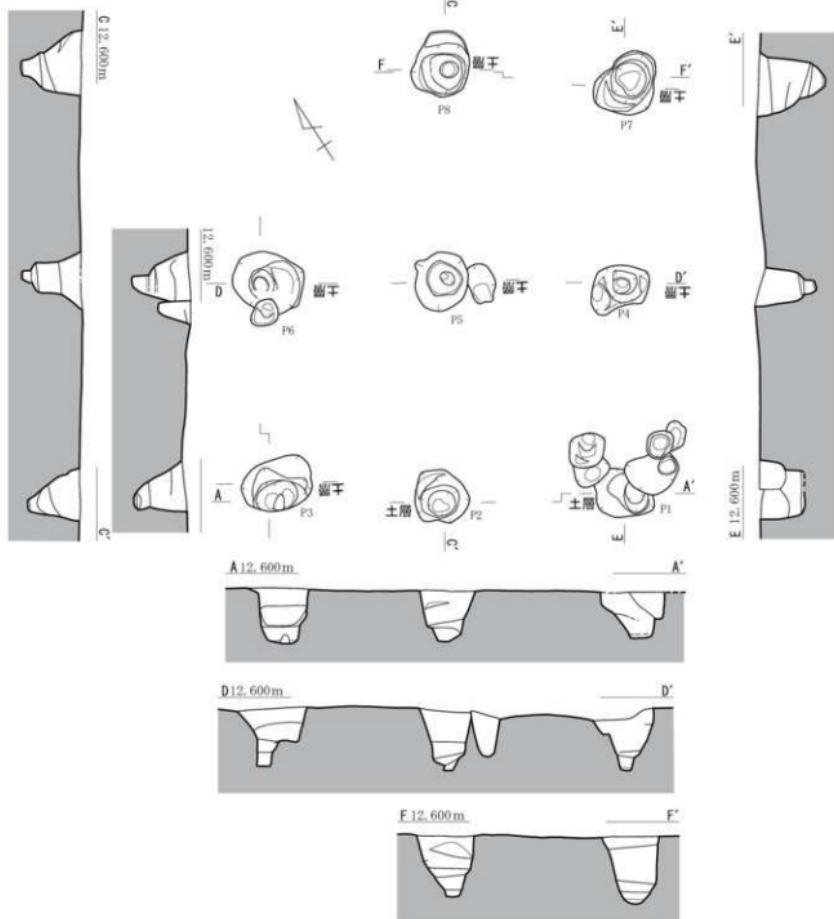
6は土師器の高坏の脚部である。ピット51より出土した。残存高2.5cm、底部の復元径13.6cmを測る。調整は内外面ともナデを施す。

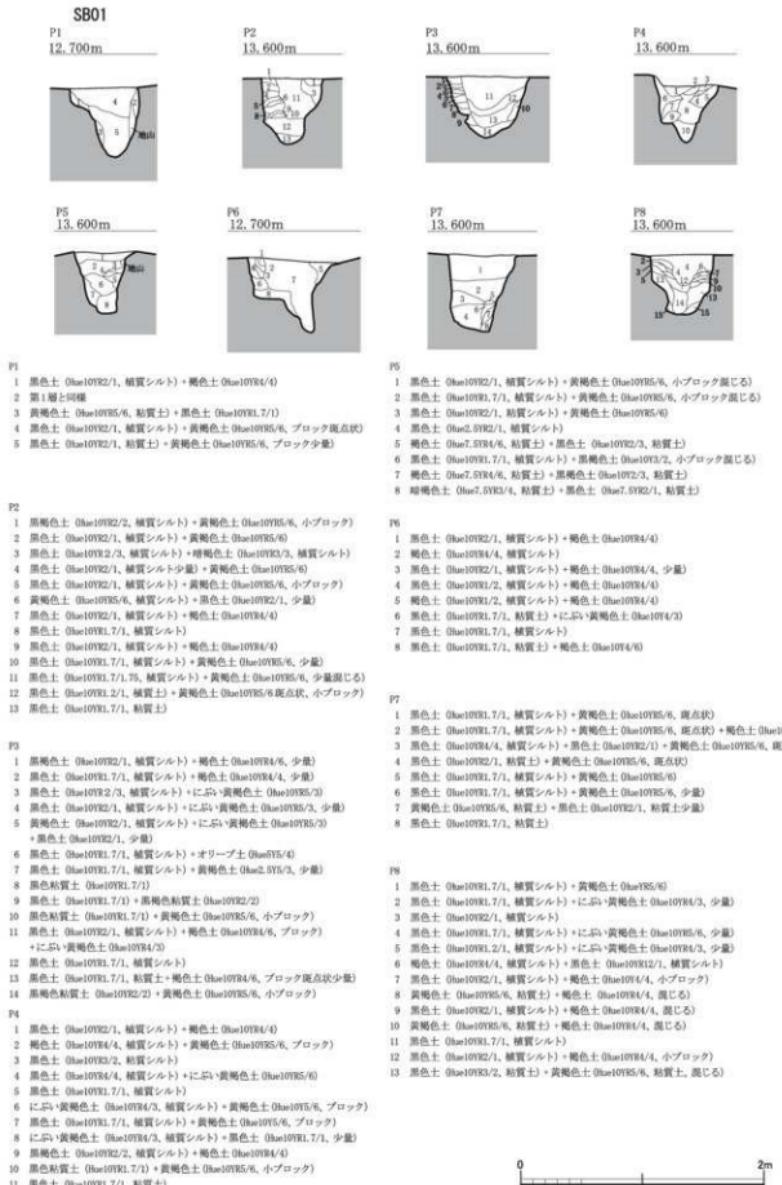
7は須恵器の坏の口縁である。ピット52より出土した。残存高1.3cmを測る。調整は内外面ともに回転ナデを施す。



第4図 SB 1 出土遺物実測図 (S= 1 / 2)

SB01

第5図 SB 1 実測図 ($S=1/50$)



第6図 SB 1 ピット1～8 土層図 (S=1/40)

第4章　まとめ

本調査区では、詳細時期不明の竪穴住居、古代の掘建柱建物、近世の溝が確認された。南東に位置する第2次調査では、古代の集落跡と中・近世の溝が確認されており、今回の調査の成果は、これまでの調査で確認されていた遺構群と同様の流れを汲むものである。調査面積が56m²と小面積ながら、ピットが切り合った状態で50基余りが検出され、1基ではあるが竪穴住居も確認された。一方で、これまでの調査の成果であげられた区画溝といった大型の溝は検出されていない。

第1表 小板井屋敷遺跡9 遺物観察表

出土遺物	標図番号	因縁番号	器種	法面cm(復元値)	色調	胎土	焼成	成形・調整	備考
SP1(SB1)		4-2	尖頭器	全長4.6、 最大幅1.95 厚1.3	灰色	-	-		炒力付裏 厚28.4g 先端部5mm表面に破損による剥離
SP1(SB2)		4-1	須恵器 爪身	残存高:4.1	内:灰白色 外:淡色	褐色 1.5mm以下砂粒含む	良	内・外面に少少剥離	
SP14		4-3	土師質 坯	残存高:3.5	褐色	褐色 1mm以下石英含む	良	内・外面丸打	外面に2付着
SP24		4-4	土師質 坯	残存高:2.3	内:褐色-灰褐色 外:赤褐色-褐色	褐色 1mm以下石英含む	良	内面丸打、外面上部切削	
SP46		4-5	土師質 坯	高さ:2.5	淡黄褐色-褐色	褐色 1mm以下石英含む	良好	内面丸打、外面上部切削	
SP51		4-6	土師質 周辺	残存高:2.5	褐色	褐 2mm以下石英含む	良	内・外面丸打	
SP52		4-7	須恵器 爪	残存高:1.3	内:灰黄色 外:黄灰色	1mm以下石英含む	特不規	内・外面丸打丸打	

図版1

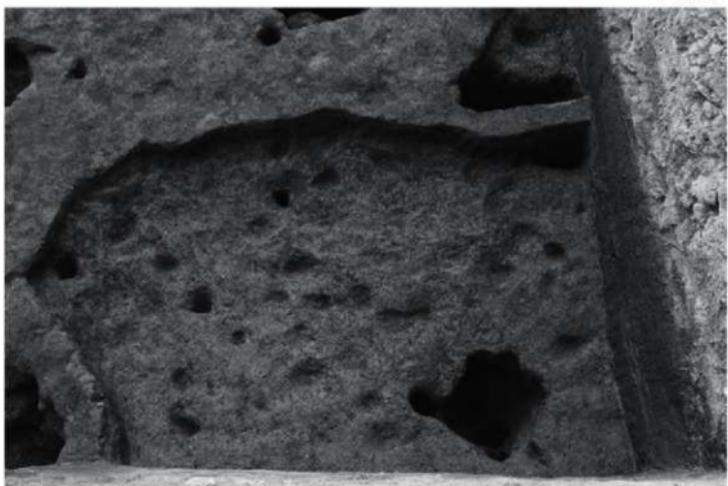


①調査区全景(南から)



②調査区全景(北から)

図版2



①SC 1(北から)



②SC 1(東から)

図版3



①SD 1(東から)



②SD 1(西から)

図版4



1



2



3



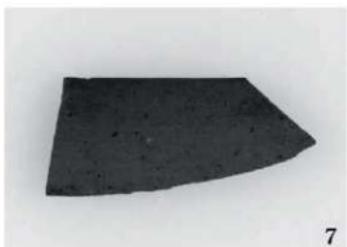
4



5



6



7

報告書抄録

ふりがな	こいたいやしきいせき9						
書名	小板井屋敷遺跡9						
副書名	福岡県小郡市小板井所在遺跡の調査報告						
卷次							
シリーズ名	小郡市文化財調査報告書						
シリーズ番号	第348集						
編著者名	山田 桃子						
編集機関	小郡市教育委員会						
所在位置	〒838-0198 福岡県小郡市小郡255-1 TEL 0942-72-2111						
発行年月日	令和4年3月31日						
所取遺跡名	所在地	コード 市町村	遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積
小板井屋敷 遺跡9	福岡県 小郡市 小板井	40216		33° 23° 39°	130° 33° 25°	2020.11.4 ~ 2020.11.24	56m ²
所取遺跡名	種別	主な時代		主な遺構	主な遺物		特記事項
小板井屋敷 遺跡9	集落跡	古代、中世、 近世		掘立柱建物、 竪穴住居		土師器	
要約	今回の調査では、掘立柱建物や竪穴住居、多数のピットを確認した。2次・5次・6次・8次調査で確認されているような屋敷地を区画する大溝などは確認されなかつたが、これまで見つかっている弥生時代から古代、中・近世にかけての集落跡と同様の流れを汲んでいる。						

小板井屋敷遺跡9

小郡市埋蔵文化財調査報告書第348集

令和4年3月31日

発行 小郡市教育委員会

小郡市小郡255-1

出版 アイフィールド有限会社

小郡市祇園2-7-2 シャトー深町2F